

A. 主な動き

1. 内政

大統領の動き

- ・7日、ヤヌコーヴィチ大統領は、モヒリョフ内相の罷免及びザハルチェンコ国税庁長官の内相への任命に関する大統領令を発出、モヒリョフ前内相のクリミア自治共和国首相任命への同意を発表。8日、クリミア自治共和国最高会議は、臨時会議を開催、モヒリョフ前内相のクリミア自治共和国首相就任に関する承認決議案を採択。
- ・8日、ヤヌコーヴィチ大統領は、新たな刑事訴追法採択に向けた最高会議の審議が近い将来に行われることを期待する旨発言。
- ・8日、ヤヌコーヴィチ大統領は、チェルニフツィ州を訪問、国内最大級の化学製品工場等を視察。

ティモシェンコ前首相に対する裁判プロセス

- ・7日、国家刑務所管理庁は、5日、ティモシェンコ前首相が腰痛を発症し歩行に障害を来している旨発表。9日、国家刑務所管理庁は、保健省医師による診断の結果、同前首相に対する取り調べ実施は可能である旨発表。これに対し、10日、「バチキフシナ」党は、同結果は信憑性に欠けており、取り調べは行うべきでないとする声明を発表。
- ・9日、ヴラセンコBYT議員(ティモシェンコ前首相弁護グループ代表)は、2009年対露ガス契約の際の権限逸脱の疑いによるティモシェンコ前首相に対する有罪判決への控訴の審議は、12月13日にキエフ市控訴裁判所において開始される見込みである旨発言。
- ・11日、国税庁は、10日、「ウクライナ統一エネルギー・システム」社による約1億6,500万米ドルの所得隠しによる約4,700万米ドルの脱税の疑いで、ティモシェンコ前首相に対し起訴状を発出した旨発表。

2. 経済

マクロ経済

- ・7日、国家統計局は、10月の消費者物価は9月と比較して変動ないとし、本年の10ヶ月間でインフレ率は4.2%上昇した旨発表。
- ・9日、アザーロフ首相は、2011年の1～10月のウクライナのGDP成長率見込みは5.3%、同時期の産業生産高の伸びは9%であった旨発言。

IMF

- ・10日、IMF理事会は、11日のIMF会合においてウクライナの問題をアジェンダで取り上げ、2008年に結論を出したスタンプバイ合意の効率性を評価する予定と発表。

金融・バンキング

- ・10日、中央銀行は、10月は売却より14億米ドル多くの外貨が買われるとともに、外貨から自国通貨への換金が9月との比較で約50%落ち込んだ旨発表。

- ・11日、アルブゾフ中央銀行総裁は、フリヴニャの価値下落について何ら理由はないとし、本年のインフレ率は予想よりずっと低くなるとともに、新たな投資家(特にロシアと中国)がウクライナの口座開設に関心を有している旨発言。

ガス問題

- ・7日、クレーエフ第一副首相兼経済発展・貿易相は、ロシアがガス価格削減に応じないのであれば、ロシアのWTO加盟を支持しないこともあり得る旨発言。

その他

- ・10日、ウクライナ政府は、2017年に月への研究用小型衛星をロシア・ウクライナ製のドニプロ(Dnipro)ロケットで打ち上げる旨を発表。

3. 外政

リトヴィン最高会議議長のロシア訪問

- ・9日、リトヴィン最高会議議長は、CIS諸国議会議長会議のためサンクトペテルブルグを訪問、ロシア連邦議会議長、アゼルバイジャン議会議長、カザフスタン上院議長、キルギス最高会議議長等と会談を実施。

ルーマニア外相のウクライナ訪問

- ・9～10日、バコンスキー・ルーマニア外相は、ウクライナを訪問、ヤヌコーヴィチ大統領、アザーロフ首相及びグリシチェンコ外相と相次いで会談、ルーマニアはウクライナがEU加盟を追求することを支持する旨発言。今次訪問で、両国間司法省協力協定及び欧州統合分野における外相間議定書に署名が行われた。

セルビア大統領のウクライナ訪問

- ・10～11日、タディッチ・セルビア大統領は、ウクライナを公式訪問、同大統領と会談したヤヌコーヴィチ大統領は、貿易、経済、科学、技術協力に関する政府間委員会をより効果的にすること、及び両国にとって欧州統合は優先課題であり、両国は今後毎年経済フォーラムを共同開催することに合意し、FTA締結交渉を開始する旨発言。リトヴィン最高会議議長は、タディッチ大統領と会談、セルビア大統領初のウクライナ公式訪問は両国関係を強化する旨、またコソボに関するウクライナの立場に変化はなく、ウクライナはセルビアの領土一体性を支持する旨発言。

事務レベル・ウクライナ・EU連合協定交渉の終結

- ・11日、ブリュッセルにおいて第21回ウクライナ・EU連合協定交渉が、クリムキン・ウクライナ外務次官とライチャーク欧

州対外活動庁(E E A S)露・東方諸国・西バルカン局長を团长とする双方代表団の間で開催、政治的側面を除いた事務レベルでの交渉をすべて終結。残るは、12月19日にキエフで開催されるウクライナ・EU首脳会談までに、政治的側面、すなわちウクライナの将来的なEU加盟の可能性にどのような形で言及するか否か等を含めた問題を残すのみとなった。

4 . 防衛

- ・7日、ウクルスペツエクスポート社は、2006年末に契約されたパキスタンに輸出する4機目のIl-76輸送機が完成した旨発表。
- ・8日、中国は、ウクライナから練習機L-15用エンジン250基を購入した旨発表。
- ・10日、パコンスキー・ルーマニア外相は、ルーマニアと米国がミサイル防衛システムに関する協定に署名した旨発言、一

方、グリシチェンコ外相は、ルーマニアのミサイル防衛システムの展開が近隣諸国に緊張を生むべきではない旨発言。
・10日、ヤヌコーヴィチ大統領は、セルビアとの防衛協力に関する政府間協定に調印。

5 . 二国間関係

平成23年度対ウクライナ草の根・人間の安全保障無償資金協力「チェルノブイリ原発事故放射能汚染地域イワンキフ地区中央病院における医療機材改善計画」署名式

- ・9日、G/C(贈与契約)締結。本件では、チェルノブイリ原発事故の被災地域にあるイワンキフ地区中央病院の医療機材整備のため、7万5,392米ドルを限度とする額を国際慈善基金「ウクライナの改革」に供与。草の根無償によるチェルノブイリ関連支援としては、本件で24件目。

(了)